

## 2017年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

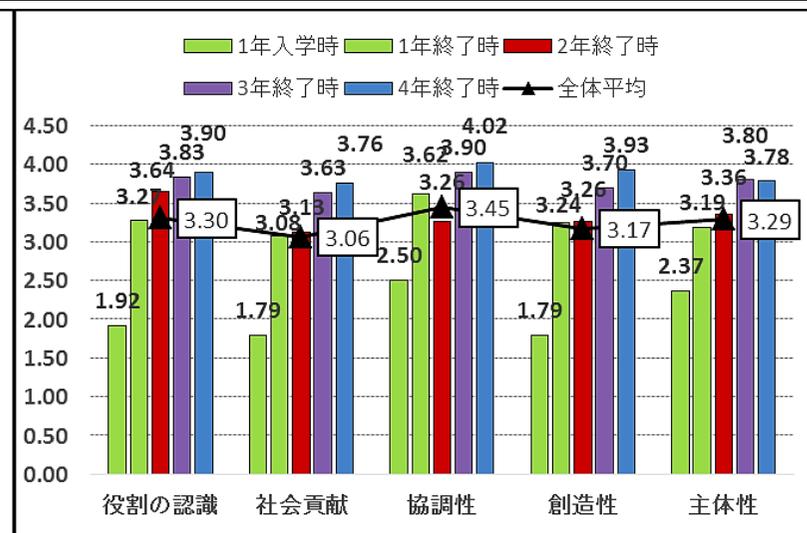
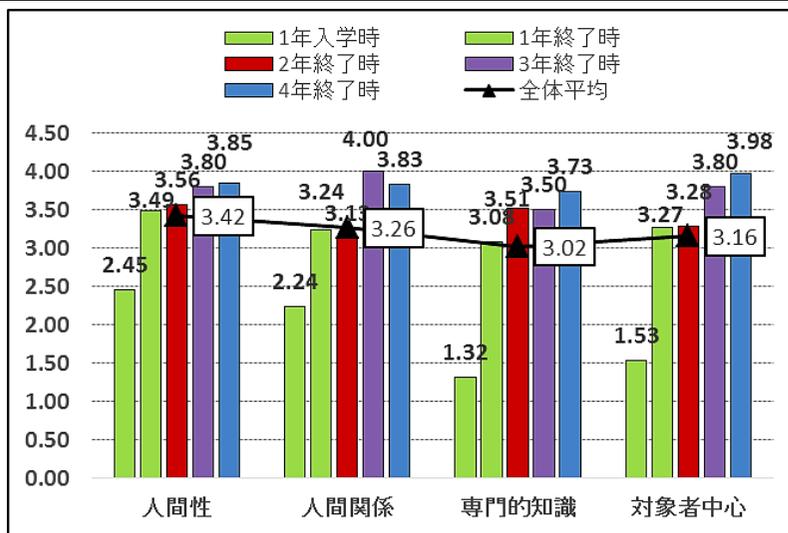
FD委員会

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

学科の学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻	検証の結果
リハビリテーション学科	<p><b>作業療法学専攻</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>分析対象の内訳：1年入学時38名（86.4%）、1年終了時37名（84.1%）、2年終了時39名（88.6%）、3年終了時30名（78.9%）、4年終了時41名（87.2%）。</li><li>注）2017年度入学生より適用のため、2～4年生は参考値。</li><li>学年の進行に伴い、すべての項目においてスコアの上昇がみられた。特に、1年終了時点で早くも基準レベルと考えている3.0を上回っていることが確認され、全体での平均点も3.02～3.45の範囲で分布していた。</li><li>入学時と4年終了時の平均値の比較でみると、2ポイント以上高い項目は、対象者中心（2.45）、専門的知識（2.42）、創造性（2.14）、となっていたが、1年から年次が進行すると共に確実に評価が上がる傾向にある。これは、ディプロマポリシーに掲げられている6項目（人間性、専門性、社会性、協調性、創造性、主体性）を考慮した、学内授業並びに臨床実習が組み込まれていることが影響し、学生の成長につながっているものと思われる。1年では専門職としての意識を促す授業が少ないことから、作業療法士としての魅力を実感できる授業内容を構成することが今後の課題として考えられる。</li></ul>



### 理学療法学専攻

- 分析対象の内訳：1年入学時 41名（95.3%）、1年終了時 35名（81.4%）、2年終了時 48名（77.4%）、3年終了時 1名（2%）、4年終了時 37名（78.7%）。
- 注1) 2017年度入学生より適用のため、2～4年は参考値。注2) 3年終了時は回答人数が少ないため、分析より除外した。
- 学年の進行に伴い、ほぼすべての項目でスコアは上昇していた。今回は3年のデータがなく、1、2年のデータが多いため、全体の平均値の基準レベルと考えている3.0を下回っている項目は4項目みられた。
- その一方で、入学時と4年終了時の平均値の比較で見ると、2ポイント以上高い項目は、実践力（2.90）、応用的知識（2.59）、論理的思考力（2.32）、問題解決力（2.06）となっていた。これは、ディプロマポリシーに基づく4年間の学内教育と4回の学外での臨床実習の経験により、特に専門職に必要な臨床的推論や知識や技術の応用につながる重要な成果を示すものと思われる。

